

令和6年度 事業所における自己評価総括表(ドットジュニアさぎぬま 第2教室(放課後等デイサービス・児童発達支援))

子ども家庭庁が定める「放課後等デイサービスガイドライン」「児童発達支援ガイドライン」に基づいて、さらに強化・充実を図るべき点(事業所の強み)や、課題や改善すべき点を整理・分析しています。この自己評価総括表をもとに、業務・サービスの資質向上や改善をしていくことを目的としています。

<保護者アンケート調査時期:R6/11/1~R6/11/18> <従業員案件調査及び検討時期:R6/11/1~11/30>

強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
支援前後の打ち合わせ・記録体制の定着	・当事業所では、日々の支援開始前にクルー同士で打ち合わせを行い、支援内容や児童ごとの配慮点を共有しています。 ・支援後には振り返りの時間を設け、気づきや改善点を記録として蓄積する体制が整っています。	今後は、支援前後の打ち合わせにおいて、新入社員やパート勤務の職員も情報を把握しやすいよう、共有方法の工夫をしていく予定です。 また、月1回以上、職員の資質向上を目的とした研修の実施を実施し、打ち合わせや記録の内容もより良いものにしていきます。
職員間の協力と情報共有の姿勢が定着している	・支援にあたる職員同士が、日々の中で積極的に情報交換を行い、児童の変化や支援の工夫について意見を交わしています。 ・支援後の振り返りの時間を通じて、互いの関わりを肯定的に学び合うことができています。	今後は、職員間で共有した支援に関する情報を可視化し、次の支援に活かせる仕組みの構築を検討しています。
支援プログラムの柔軟な運営と見直し	・当事業所では、児童の成長段階や興味関心に応じて、プログラムの内容を柔軟に見直すことができています。 ・活動の目的やねらいを都度確認しながら、その時々で必要な取り組みを選択・調整しています。 ・参加する児童にとって無理のない形で「挑戦」や「楽しさ」を経験できる環境が整っています。	今後も、児童の反応や状況に合わせて都度見直し継続しつつ、支援プログラムの「ねらい」や「育ちの視点」を職員間で共有しやすくする仕組みを整備する予定です。

弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	拠点として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取り組みや工夫が必要な点等
地域との交流機会が不足している	・地域の児童館や放課後児童クラブ、住民との交流の機会が少なく、地域との接点が限られている状況でした。 ・コロナ禍以降、外部との交流が減少し、再開のきっかけが得にくくなっています。	今後は、地域施設(図書館・公園・児童館など)への外出プログラムを通して、地域と交流できる場を提供していく予定です。
安全管理・災害対応に関する周知	・事故防止や災害時対応のマニュアル類は整備されているものの、職員や保護者への周知、訓練の実施については不十分な部分が見受けられました。 ・周知が契約時のみで、定期的な再確認がなされていませんでした。	今後は、BCP(業務継続計画)や再開時対応のマニュアルなどの見直しを行うとともに、定期的な避難訓練を実施します。 また、安全計画をもとに、月1回程度の頻度で職員向けの研修および訓練を実施する予定です。 非常時においても迅速かつ確に対応できる体制づくりを進めていきます。
児童の年齢や特性に対して環境面の工夫が不足している	・中高生の利用が多い当事業所においては、身体的な成長や心理的な変化に配慮した空間設計や設備の見直しが必要です。 ・年齢に応じた「居場所」の在り方や、個別に落ち着けるスペースの確保が求められる中、教室スペースでは十分に対応しきれていない部分が見受けられます。 ・教室内の物品管理についても、どこに何を保管するのかといったルールが職員間で曖昧になっており、空間の使い方に無駄が生じている状況です。	今後は、拠点内の物品を整理し、収納方法や配置を見直すことで、児童がより落ち着いて過ごせる空間を確保していきます。